

JENNIFER LEE

Ceramics made in Shigaraki and London

ジェニファー・リー

信楽・ロンドン：旅の軌跡と蓄積



Special thanks

Alun Graves
Senior curator, Victoria and Albert Museum
Use of text Galerie Besson, London

Hiroko Miura
Curator, Shigaraki Ceramic Cultural Park

Michio Sugiyama
Section Chief of the Residency Program
Shigaraki Ceramic Cultural Park

Staff
Shigaraki Ceramic Cultural Park

Edmund de Waal
Artist and author
Use of text Liverpool Street Gallery, Sydney

謝辞

アラン グレイブス
ヴィクトリア&アルバート美術館 シニアキュレーター
テキストの使用 Galerie Besson (ロンドン)

三浦弘子
滋賀県立陶芸の森 専門学芸員

杉山道夫
滋賀県立陶芸の森 創作研修課長

スタッフの皆様
滋賀県立陶芸の森

エドマンド ドゥ ヴァール
作家、著者
テキストの使用 Liverpool Street Gallery (シドニー)

ジェニファー・リーについてどこから話を始めようか。おそらく場所だろう。それもあふれた場所である。それは、リーのアトリエにあるベンチではない。庭のジャスミン畑が見渡せるアトリエで、リーは窯を背に作業をする。目の前には一面の白い壁、足元には30年以上にもわたり丁寧に袋詰めされ、ラベル付けされて保管されている有名な色土が並んでいる。彼女の故郷スコットランドでもない。スコットランドの丘陵地では、北の光が優しく穏やかに広がり、見る者を魅了する。リーは陶芸家人生の中で大いに旅してきたが、そうした場所でもない。旅先で見つけるポストカードに載っていきそうな砂漠、不思議なイタリアの丘の町、聞いたこともないようなアメリカ南西の僻地でもない。また、それはリーの作る器の紋様として浮かびあがる場所でもない。むき出しになった川岸の地層、朽ちかけの倒木など、どこか特異な場所を喚起させるものではない。リーの器は丘の中腹や小石の多い沿岸の散歩中に拾った石を思い起させる。この場所という観点から、彼女の作品について話を始めることができるのではないか。それはコンテンツとしての場所、コンテキストとしての場所かもしれない。

あるいは、ジェニファー・リーが自らの作品をどう配置するのか、その場所である。リーの作品は、安藤忠雄が手掛けた東京の会場や、ロンドンの19世紀美術のギャラリー、アメリカで広がるミニマリズムの中など、世界中で鑑賞されてきた。ここで展示されている作品同士の対話を見れば、空間を占めるさまがとても独特であることに気づく。作品を高い位置に置くことで、楕円形の縁、底に向かっての大胆な降下、外と内の色の合わせ目に見えるラインを見てとることができる。その1つ、例えばアンバーの光の輪を持つ濃い黄褐色の壺に目をやれば、色の周りを取り囲む淡い影に魅せられるだろう。それはまるで雲の切れ間から差し込む光のようであり、ウンブリアの礼拝堂の壁にあるなだらかな水跡のようでもある。そして吸い込まれるようにして、別の作品、少し背の低い椀に目をやる。似た色調の土で作られてはいるが、これはより土感が出ていて、落ち着いている。そして次の瞬間には、3つ目の作品、背が高めで縁が大胆にカットされた器が目に入ってくる。そしてそれらの作品が一体となって1つの空間を創り出していることに気づき、その場所に近寄りたくなるのである。ほとんどの芸術家は作品をどう展示するかにこだわる。むしろ気かけないのは邪道というものだろう。しかし、見る者を前に後ろに動かし、全体を見るか個々の作品を見るか悩ませる展示になるような配置をすることがいかに難しいか、理解できる感受性を持つ者はほとんどいない。私が出会った最も優れた彫刻の定義に、「周りの空気を動かして、ある種の空間的ノイズを創り出すこと」という表現がある。リー作品がまさにそうだ。世の作品には、全体の中で萎縮するもの、周囲を弱めてしまうものもあれば、ジェニファー・リーの作品のようにそこに色を加えるものもある。

または、実際にこれらの光を放つ作品を生み出す手法、つまりリーの技が見える場所である。陶器において「自分の立場を知る」とは、たいてい推測される用途と結びついており、その用途は明示されない最も基本的な形をとる。作り手の仕事はモノを作ることであるなら、モノの仕事は自分の立つ場所を知ることだ。つまりどんなモノかであるよりも、何かをするモノであるという意味の、シンプルな用途の位置付けである。実用性を良いとする考えはここでの主張に沿う。なぜならば、複雑なモノやモノ作りへの姿勢に潜在する乱雑さや散漫さとは対照的に、それは時間や志向の整然とした秩序を意味するからだ。これらの器は自分の立つ場所をわかまえているか。それは確実なものに対する声明ではなく、技法について投げかけられる疑問である。

もしくは、ジェニファー・リーについて語る際、始めに言及すべきは、彼女の作品に見える場所である。リーの作品は、場所は重要だと言っているように思う。知っている場所の思索、知覚、記憶と、作品に映る創造世界という全く抽象的な概念の中に私たちが繰り返し引き込む。リーの美しい作品は、複雑かつ興味を掻き立てる場所の具現化である。

エドモンド・ドゥ・ヴァール
作家、著者

Where do we start with Jennifer Lee? Perhaps with place. Not a singular place, the bench in her studio at which she works overlooking a tangle of jasmine in her garden. She works with her back to the kiln, a white expanse in front of her, her feet amongst her famous archive of coloured clays, carefully bagged and labelled over thirty years. Not the place she came from, the Scottish landscape of hills that unfolds gently, the soft light of the North drawing you onwards. Not even the journeys which are part of her working life, the postcards that are received from deserts, strange Italian hill-towns, unlikely bits of the American Southwest, marking her peregrinations with her family. Not even the places that echo in the striations in her vessels, the revealed strata of a riverbank, the crumbling geographies of a fallen tree, an evocation of particularity. They are vessels that are echoes of stones picked up on walks on hillsides and pebbly shores. This, surely, could be a way of starting out to talk about her work? Place as content, place as context?

Or perhaps we could look at how Jennifer Lee places her work. She has shown her work across the world, from Tadao Ando spaces in Tokyo, nineteenth century galleries in London and raw minimalist expanses in America. When you see the careful conversation between several of her vessels – as in this exhibition – they have a very particular way of occupying the space in which they sit. They are placed at heights so that you can read the ellipse of a rim, the vertiginous descent towards a base, the running line of a seam of colour between outside and inside. You see one – perhaps a dark olive pot with haloed umber bands – and are captivated by the paler shading around the colours. It looks like light breaking around a cloudscape. Or the gentle markings of damp on a wall in an Umbrian chapel. And then, just as you find yourself carried off, you notice another of the series, a lower bowl made with similar tones of clay. But this one is more geological in feel, more grounded. And this is the moment when you notice the third, taller, more dramatically cut across the rim. And you realise that they work together to create a place between them – a place you want to move in. Most artists care how their work is displayed – it would be perverse not to mind. But few have the sensitivity to know how difficult it is to place work in a room so that you are compelled to move forwards and then back, caught between seeing the whole and the particular. One of the best definitions of sculpture that I have come upon is that it displaces the air around it, creating a sort of spatial hum. These vessels do. Some objects shrink in the world, or diminish their surroundings. Others, like Jennifer Lee's, seem to add.

Or perhaps we could start with her placing of skill, the way in which she actually makes these lambent objects. 'Knowing your place' within ceramics is often connected to presumed utility, utility in its most basic, undemonstrative form. If the job of the maker is to make objects, the job of objects is also to know their place. This is a simple locating of activity as meaning: they are objects that do something, rather than are something. Utility is good goes this argument, because it suggests a tidy ordering of time and intentionality as opposed to the messiness and distraction implicit in more complex objects, or in a more complex attitude to object-making. Are these vessels that know their place? They are questions about skill, not statements about certainties.

So perhaps a place to start talking of Jennifer Lee is the idea of place in her work. I think that her work says that place matters. It is iterative, pulling us between thoughts and perceptions and memories of places that we know, and a completely abstracted idea of place in itself: they map imagined worlds. These beautiful things are the embodiment of place, complex and intriguing.

Edmund de Waal
Artist and author

ジェニファー・リーの陶芸 ～旅の軌跡から

三浦弘子

滋賀県立陶芸の森 専門学芸員

スコットランドの北東部に生まれたジェニファー・リー。彼女は、スコットランドには、信じられない程様々な海岸線が続いていると言います。1975年には、エジンバラ・カレッジ・オブ・アートに入学し陶芸とタペストリーを学びます。在学中は、ロクロやラク焼、磁器や陶器など様々な制作を経験しましたが、手びねりと色土を使った作品は、集中的に行いました。1979年、エジンバラを離れた後、奨学金を得てアメリカ南西部と西海岸を6ヶ月間にわたり旅をしています。その旅の中でも、アリゾナ州のソノラ砂漠、ニューメキシコ州のタオスのアドーベ(日干し)レンガでつくられた建物群など、ダイナミックな大地の風景は、彼女に強烈な印象を与えました。

1980年から1983年まで学んだロイヤル・カレッジ・オブ・アートでは、南西部のアメリカ・インディアンの先史のやきものをテーマにした論文を書き、そこから影響を受けた事が伺えます。一方制作では、型成形を学び、そして色土を使った手びねりの仕事をし、この頃から、器の色土の帯が溶け合うような作品を作り始めました。

また、この頃6週間にわたりエジプトを訪ねる機会を得ました。古代エジプトの赤色の彩色土器だけでなく日本の縄文土器など、古代文明からの産物は、彼女に大いに刺激を与えています。1985年には、ロンドンにあるヴィクトリア&アルバート美術館で2点の作品が買い上げられ、イギリスでも陶芸家としての存在感を示し始めていたといえます。

また、彼女が素晴らしいと思うものの中には、時の経過を思わせる古びた錆た缶や、ウィーンにあるホフマン橋の錆びたボルトなど、腐食して朽ちている色褪せた物に心を寄せるようになりました。そして1992年の2ヶ月に及ぶインドへの旅は、西欧にはないさまざまな物との出会いをもたらしました。タール砂漠や、街の市場で山盛りなされた黄色や赤や赤褐色といった強烈な色をした香辛料のパウダーやジャツガリー(ナツメヤシの赤砂糖の塊)が並ぶ店先の風景は、まるで現代アーティスト、ヨゼフ・ボイスの作品を思い起こさせるとその時の様子を語っています。

1993年には、イギリスのみならずスコットランドにあるアバーデンアートギャラリーやスウェーデンにあるロスカ美術館で、回顧展が開かれました。この頃の作品では、器の口づくりの部分に縁取りを付けるようになります。また1996年には、円錐形の縁を付け始めました。内側からと外側から見えるうつわの景色を意識しながら、新しい新境地を探求していたことが

うかがえます。さらに、器に帯を差し込んでいく手法を始めました。それにより、さらに色彩の帯がうつわの中で強調されました。

色土による色彩の帯とフォームは融合し、作品を囲む空間も含めて、彼女の作品の重要な要素となっていきます。特に、釉薬を使わず、酸化によって色が変化する土で、触覚を感じさせる表面のテクスチャーにも重要性を見いだしています。さらに、器の外を内側から見える角度によって違って見える姿、色とフォルムのバランスが、ジェニファーの作品の魅力といえるのです。

1994年、東京にあるギャラリー小柳で初めて日本で紹介され、この展覧会により、重要な作品が栃木県立美術館に購入されました。2009年、イッセイ・ミヤケ氏のディレクションによって、同じイギリスのルーシー・リー、ドイツの木彫アーネスト・ガンペールとジェニファー・リーの3作家によるU-TSU-WA展が、東京21-21-デザインミュージアムで開催されました。器のフォルムの美しさをひときわ意識させ、ルーシー・リーの作品が、うつわをとりまく空間を魅せる作品であることとともに、ジェニファーの複数のうつわがまるで対話するかのように展示された素晴らしい展観でした。

そして2014年、「現代イギリス陶芸展」の会期に合わせ信楽にある滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンスのゲストアーティストとして、1ヶ月半、さらに2015年春にも滞在制作を行いました。信楽では、さまざまなことに興味を示し、墨絵やロンドンではあまり制作されたことのなかった陶板作品や、ロクロによる作品、薪窯などにも挑戦しました。

ジェニファーは、自らの作品について次のように語ります。「私が影響を受ける物というのは、直接何かから受けるというのではなく、蓄積されているものなのです。アイデアがフィルターを通して取り込まれ私の中でゆっくりと成長させるものなのです。」(註)

ジェニファー・リーの作品を理解するには、彼女のさまざまな、印象深く記憶にとどめられていると思われる旅の軌跡に触れる必要があります。ここ日本、そして信楽での多くの彼女のさまざまな人との出会いや経験が、またゆっくりと作品の中で新しい挑戦をうながすものと思われま

(註)「アーティスト・トーク」滋賀県立陶芸の森(2014. 4)

My influences are accumulative, not direct. Ideas filter through over time-my work develops slowly.

(参考文献)「アーティスト・トーク」テキスト滋賀県立陶芸の森(2014. 4)

Jennifer Lee's World of Ceramics " Following trails "

Hiroko Miura

Curator, Shigaraki Ceramic Cultural Park

Jennifer Lee was born in North East Scotland. She describes her country as a place with diverse coastlines. She began studying ceramics and tapestry at Edinburgh College of Art in 1975. There she trained in various ceramic techniques including throwing, press-moulding and Raku using porcelain and stoneware. Lee particularly concentrated on creating artwork using coloured clays and hand-building techniques.

After leaving Edinburgh in 1979, Lee received a scholarship to travel to the Southwest and West Coast of the United States for six months. During her trip, dynamic landscapes, such as the Sonoran Desert in Arizona and adobe buildings in Taos, New Mexico greatly impressed her.

At the Royal College of Art, where she studied ceramics from 1980 to 1983, she wrote her thesis on Southwest Prehistoric Native American Pottery which shows an influence of her trip to the United States. Regarding techniques and methods, she continued developing her hand-built work in coloured clay. It was during this time that she began creating pots using coils of colour interwoven with each other.

In addition, during this time, Lee took the opportunity to visit Egypt for six weeks. Artefacts from ancient civilizations, including the redware of ancient Egypt and pottery from the Jōmon era in Japan, significantly inspired her work. In 1985, the Victoria and Albert Museum in London bought two of her works for its collection. This shows that Lee was starting to establish her presence as a potter in the United Kingdom.

At this time her interests included decay, corrosion, erosion and decrepitude in things like rusting metal tins and the corroded bolts of a Hoffman Bridge found in Vienna. On a two-month trip to India in 1992 she encountered several exotic objects that are not found in Europe. In recalling what she saw there, she mentions the Thar Desert and market stalls piled high with spices in intense yellow, red, and umber. The jaggery (lumps of palm sugar) reminded her of contemporary artwork by Joseph Beuys.

In 1993 retrospective exhibitions took place at the Aberdeen Art Gallery & Museums in Scotland and the Röhsska Musset in Sweden. The characteristics of her work at the time included emerging rims added inside the vessels. She also began making coned rims in 1996. This indicates that she entered a new phase by pursuing both internal and external contours in her

artwork. Furthermore, she started using a technique she describes as “working with traces,” where she cuts through the pot to insert bands through vessels.

A fusion between form and bands of coloured clays as well as the space surrounding the vessel became important characteristics of her work. She does not use glaze but instead colours the clay with oxides. The texture and tactile qualities of the work are important. The balance between colour and form are trademarks of her artwork.

In 1994, Lee's work was first introduced to Japan at Gallery Koyanagi, Tokyo. Following this exhibition a significant work was purchased by Tochigi Prefectural Museum of Fine Arts. More recently, U-Tsu-Wa, the joint exhibition with British potter Lucie Rie and German woodturning artist Ernst Gamperl, took place in 2009. It was organized by Issey Miyake and the venue was 21_21 DESIGN SIGHT in Tokyo. This outstanding exhibition particularly highlighted the beautiful shapes of the vessels; where the space surrounding Rie's artworks was highlighted, Lee's vessels were displayed as if they were conversing with each other.

As well as taking part in the exhibition Contemporary British Ceramic Art—From Bernard Leach to New Generation, Lee visited the Shigaraki Ceramic Cultural Park in Shigaraki, Japan as a guest artist and stayed there for seven weeks through the Artist in Residence Program in 2014 and returned for two months in the spring of 2015. She showed interest in various elements of art and experimented with ceramic techniques that she had not previously developed in London, such as working on flat work and firing in wood-fired Anagama kilns. She also began throwing on the wheel again.

Lee explains her work as follows: “My influences are accumulative, not direct. Ideas filter through over time - my work develops slowly.”

In order to fully understand the ceramic world of Jennifer Lee, it is crucial to follow the trails of her trips, which are deeply engraved in her memory. Encounters with various people and experiences here in Shigaraki, I believe, will gradually stimulate her to take on new challenges in her artwork.

Reference

A Text of “Artist's Talk.” (2014. 4). Shigaraki Ceramic Cultural Park. My influences are accumulative, not direct. Ideas filter through over time - my work develops slowly.

傾いたオリーブ色の壺（閃光、くすんだ斑点の帯）
Olive, smoky speckled bands, flashing, tilted
2008
Φ17.5×H32cm



傾いた縁の白い壺（オリーブ色の斑点の渦）

Pale, speckled olive spiral, tilted rim

2015

H19.4×W13.8×D13.4cm



オリーブ色の鉢（光輪がかった花崗岩質の輪）

Olive, haloed granite ring

2012

Φ21×H9cm



白い鉢（二筋の斑点の輪）

Pale, two speckled ring traces

2015

Φ18.2×H11.1cm



斑点のオリーブ色の壺（花崗岩質の閃光の帯）
Speckled pale olive, flashing granite bands
2015
H16.1×W11×D11cm



深いオリーブ色の壺 (暗い閃光の帯)
Dark olive, flashing dark bands
2015
H13.6xW10.5xD10cm



白い陶板 (オリーブ色の花崗岩質の跡)
Pale, olive dark and granite haloed traces
2015
H31.5xW43xD1cm



表



裏

白い陶板 (オリーブ色の花崗岩質の跡)

Pale, olive granite haloed traces

2015

H20.5×W32×D1.08cm



表



裏

(左から)

信楽 6 MMXV

信楽 7 MMXV

信楽 5 MMXV

Shigaraki 6 MMXV $\Phi 5 \times H 7 \text{cm}$

Shigaraki 7 MMXV $\Phi 4 \times H 6 \text{cm}$

Shigaraki 5 MMXV $\Phi 5.5 \times H 7.5 \text{cm}$

2015



(左から)

信楽 11 MMXV

信楽 10 MMXV

信楽 8 MMXV

信楽 9 MMXV

Shigaraki 11 MMXV $\Phi 4.3 \times H 4.8 \text{cm}$

Shigaraki 10 MMXV $\Phi 4.5 \times H 5 \text{cm}$

Shigaraki 8 MMXV $\Phi 4.2 \times H 6 \text{cm}$

Shigaraki 9 MMXV $\Phi 4 \times H 5.5 \text{cm}$

2015



ジェニファー・リー

【経歴】

- 1956 スコットランド生まれ
1975-1979 エジンバラ・カレッジ・オブ・アート卒業
1979-1980 奨学金を受けアメリカに滞在
1980-1983 ロイヤル・カレッジ・オブ・アート卒業

【個展(2000~)】

- 2015 滋賀県立陶芸の森(滋賀)
2013 Erskine, Hall & Coe(ロンドン/イギリス)
2012 Frank Lloyd Gallery(ロサンゼルス/アメリカ)
2010 Liverpool Street Gallery(シドニー/オーストラリア)
2009 Frank Lloyd Gallery(ロサンゼルス/アメリカ)
2008 Galerie Besson(ロンドン/イギリス)
2006 Liverpool Street Gallery(シドニー/オーストラリア)
2005 Frank Lloyd Gallery(ロサンゼルス/アメリカ)
2003 Galerie Besson(ロンドン/イギリス)
2002 Frank Lloyd Gallery(ロサンゼルス/アメリカ)
2000 Galerie Besson(ロンドン/イギリス)

【グループ展(2010~)】

- 2015 「表現するうつわーイギリス現代陶芸の精神ー」 益子陶芸美術館(栃木)
「数々のスリップ」 Marsden Woo Gallery(ロンドン/イギリス)
2014 「日本のデザインミュージアム実現にむけて展」 21_21 Design Sight(東京)
「現代イギリスの陶芸~バーナード・リーチから若手作家まで」 滋賀県立陶芸の森陶芸館(滋賀)
「小さいとは美しいこと」 Frank Lloyd Gallery(ロサンゼルス/アメリカ)
「コレクターの展覧会」 Liverpool Street Gallery(シドニー/オーストラリア)
2013 第二回国際陶芸フェスティバル(静岡)
「インターナショナルセラミックフェスティバル」 フェルケール博物館(静岡)
「世界からII」 GALERIE hu(愛知)
「クラシック & コンテンポラリー」 Erskine, Hall & Coe(ロンドン/イギリス)
「LSG2013」 Liverpool Street Gallery(シドニー/オーストラリア)
「炎の中で形作られる友情: アメリカにおけるイギリスの陶芸」 アメリカ陶芸美術館(カリフォルニア/アメリカ)
2012 「第二回FIHOC, フランク国際陶芸館」 Frank Lloyd Gallery(ロサンゼルス/アメリカ)
「ギャラリーベッソン, 生涯の情熱回顧展」 Officine Saffi(ミラノ/イタリア)
「モノの本質: ジェニファー・リー, ハンス・ストファー, ローラ・エレン・ペーコン」 New Art Centre(ウィルトシャー/イギリス)
「店主の名品展ー店主交代記念 海外作家編」 酉福ギャラリー(東京)
2011 「コレクト」 SAATCHI GALLERY(ロンドン/イギリス)
「現代陶芸」 DANESE/COREY(ニューヨーク/アメリカ)
「イギリスの現代陶芸」 ミント・クラフトデザイン美術館(ノースカロライナ/アメリカ)
2010 「ブルーチップ - コレクター展覧会」 Liverpool Street Gallery(シドニー/オーストラリア)
「グループ展」 酉福ギャラリー(東京)
「コレクト」 SAATCHI GALLERY(ロンドン/イギリス)
2009 「U-Tsu-Wa」 21_21 Design Sight(東京)
「現代陶芸: ダウアーコレクション」 カリフォルニア州立大学(サクラメント/アメリカ)
「セルマークコレクション」 ロスカ美術館(イエテボリ/スウェーデン)
「イギリスの陶芸」 モノバレーアートセンター(ウェールズ/イギリス)
2008 「イギリスの陶芸ー20世紀の変遷」 バッキンガム州博物館(バッキンガム/イギリス)

- 「20年—20のうつわ」Galerie Besson(ロンドン/イギリス)
「美しい造形」国立ガラスセンター(サンダーランド/イギリス)
2006 「コレクト」ヴィクトリア&アルバート美術館(ロンドン/イギリス)
「ピュア クレイ」陶磁器博物館(テジェレン/オランダ)
「国際戦後陶芸」Bonhams(ロンドン/イギリス)
2005 「Craft Council 30周年記念展」ヴィクトリア&アルバート美術館(ロンドン/イギリス)
「ヨーロッパ現代陶芸ピエンナーレ」道具と職人博物館(トロワ/フランス)
「現代の陶器：ルーシー・リー、ハンス・クーパーと彼らのコンテンポラリー」Dulwich Picture Gallery(ロンドン/イギリス)
「ダックワース オマージュ本質的抽象主義」Garth Clark Gallery(ニューヨーク/アメリカ)
「一作家一作品」Galerie Marianne Heller(ハイデルベルグ/ドイツ)
2004 「ヨーロッパの陶芸」ウスターバルト陶芸美術館(ウスターバルト/ドイツ)
2003 「土の造形：近代イギリスの手びねり」Galerie Besson(ロンドン/イギリス)
「厳選イギリスの陶芸」James Graham & Sons (ニューヨーク/アメリカ)
「世界陶芸ピエンナーレ2003」利川世界陶磁センター(利川/韓国)
「イギリスの陶芸：5人の作家」Frank Lloyd Gallery(ロサンゼルス/アメリカ)
「イギリスの陶芸」バッキンガム州博物館(バッキンガム/イギリス)
ホーヴ美術館(ホーヴ/イギリス)
2002 「10カ国のうつわ」パーバリアン工芸会(ミュンヘン/ドイツ)
「陶芸のモダニズム：ハンス・クーパー、ルーシー・リーと彼らの遺したもの」ガーディナー陶磁器博物館(トロント/カナダ)
2001 「土の詩：国際的観点から」フィラデルフィア美術連合(フィラデルフィア/アメリカ)
「第一回世界陶芸ピエンナーレ2001」利川世界陶磁センター(利川/韓国)
「近代のうつわ」東アングリア大学サンスプリービジュアルアートセンター(ノリッチ/イギリス)
「ベンクト・ジュリンの陶芸」グスタフスベリ陶磁器博物館(グスタフスベリ/スウェーデン)
2000 「イギリスの陶芸」デンマーク陶芸美術館(グリマーウス/デンマーク)
「色と火：1950-2000の陶芸の特徴」ロサンゼルス州立美術館(ロサンゼルス/アメリカ)

【パブリックコレクション】

【イギリス】

アバーデン美術館(アバーデン)/バッキンガム州博物館(バッキンガム)/現代美術協会(ロンドン)/工芸協会(ロンドン)/フィッツウィリアム美術館(ケンブリッジ)/グラスゴー美術館(グラスゴー)/ホーヴ美術館(ホーヴ)/リーズシティーアートギャラリー(リーズ)/ミドルズブラ・モダン・アート協会ギャラリー(ミドルズブラ)/ノリッチ城美術館(ノリッチ)/王立博物館(エジンバラ)/東アングリア大学サンスプリービジュアルアートセンター(ノリッチ)/スコットランド・ダウンヒル協会(エジンバラ)/スウィンドン美術館(スウィンドン)/受託者貯蓄銀行(ロンドン)/ヴィクトリア&アルバート博物館(ロンドン)

【ドイツ】

ヨーロッパ美術工芸貿易事務局(シュツットガルト)/ハンブルク美術工芸博物館(ハンブルク)/コーブルク城塞アートコレクション(バイエルン)/ピーター・ジームセン陶芸財団

【スウェーデン】

セルマーク(イエテボリ)/スウェーデン国立美術館(ストックホルム)/ロシュカ美術館(イエテボリ)

【スイス】

ベルリーヴ美術館(チューリッヒ)

【ニュージーランド】

ホークス・ベイ博物館(ニュージーランド)

【アメリカ】

カーネギー美術館(ピッツバーグ)/クロッカー美術館(サクラメント)/ロングビーチ美術館(ロングビーチ)/ロングハウス・リザーブ(ニューヨーク)/ロサンゼルス州立美術館(ロサンゼルス)/ミネアポリス美術研究所(ミネアポリス)/フィラデルフィア美術館(フィラデルフィア)/スクリップスカレッジ(カリフォルニア)/メトロポリタン美術館(ニューヨーク)

【日本】

栃木県立美術館(栃木)/益子陶芸美術館(栃木)/滋賀県立陶芸の森陶芸館(滋賀)

Jennifer Lee

- 1956 Born in Scotland
1975-1979 Edinburgh College of Art
1979-1980 Travelling scholarship to USA
1980-1983 Royal College of Art, London

[Solo Exhibitions (2000-)]

- 2015 The Institute of Ceramic Studies Gallery (Shiga/Japan)
2013 Erskine, Hall & Coe (London/UK)
2012 Frank Lloyd Gallery (Los Angeles/USA)
2010 Liverpool Street Gallery (Sydney/Australia)
2009 Frank Lloyd Gallery (Los Angeles/USA)
2008 Galerie Besson (London/UK)
2006 Liverpool Street Gallery (Sydney/Australia)
2005 Frank Lloyd Gallery (Los Angeles/USA)
2003 Galerie Besson (London/UK)
2002 Frank Lloyd Gallery (Los Angeles/USA)
2000 Galerie Besson (London/UK)

[GROUP EXHIBITIONS (2010-)]

- 2015 Vessels: The Spirit of Modern British Ceramics, Mashiko Museum of Ceramic Art (Tochigi/Japan)/Many a Slip, Marsden Woo Gallery (London/UK)
- 2014 Toward a DESIGN MUSEUM JAPAN, 21_21 Design Sight (Tokyo/Japan)British Ceramics from Bernard Leach to New Generation, The Museum of Contemporary Ceramic Art (Shiga/Japan)
Small is Beautiful, Frank Lloyd Gallery, Santa Monica (California/USA)
The Collector's Exhibition, Liverpool Street Gallery (Sydney/Australia)
- 2013 2nd International Ceramic Art Festival (Shizuoka/Japan)
International Ceramics, Verkehr Museum (Shizuoka/Japan)
From the World II , GALERIE hu (Aichi/Japan)
Classic & Contemporary, Erskine, Hall & Coe (London/UK)
LSG 2013, Liverpool Street Gallery (Sydney/Australia)
Friendship Forged in Fire: British Ceramics in America. American Museum of Ceramic Art (California/USA)
- 2012 FIHOC part two, Frank's International House of Ceramics. Frank Lloyd Gallery (Los Angeles/USA)
Galerie Besson, Retrospective of a Lifelong Passion, Officine Saffi Ceramic Arts (Milan/Italy)
The nature of things: Jennifer Lee, Hans Stofer and Laura Ellen Bacon, New Art Centre (Wiltshire/UK)
Masterworks by International Artists, Yufuku Gallery (Tokyo/Japan)
- 2011 Collect, SAATCHI GALLERY (London/UK)
Contemporary Ceramics, DANESE/COREY (New York/USA)
Contemporary British Studio Ceramics, Mint Museum of Craft & Design (North Carolina/USA)
- 2010 Blue Chip, The Collector's Exhibition, Liverpool Street Gallery (Sydney/Australia)
Group exhibition, Yufuku Gallery (Tokyo/Japan)
Collect, SAATCHI GALLERY (London/UK)
- 2009 U-Tsu-Wa, 21_21 Design Sight (Tokyo/Japan)
Contemporary Studio Ceramics: The Dauer Collection, California State University (Sacramento/USA)
The Cellmark Collection, Röhsska Museet (Göteborg/Sweden)
British Studio Pottery, Monnow Valley Arts Centre (Wales/UK)
- 2008 British Studio Ceramics - 20th Century Transformations, Buckinghamshire County Museum (Buckingham/UK)
Twenty Years - Twenty Pots, Galerie Besson (London/UK)
Beautifully Crafted, National Glass Centre (Sunderland/UK)
- 2006 Collect, Victoria & Albert Museum (London/UK)

- Puur Klei, Pottenbakkers Museum (Tegelen/The Netherlands)
 International Post War Ceramic Art, Bonhams (London/UK)
- 2005 Celebrating 30 Years, Crafts Council at the V&A, Victoria & Albert Museum (London/UK)
 Biennale Européenne de Céramiques Contemporaines, Musée de l'Outil et de la Pensée Ouvrière (Troyes/France)
 Modern Pots: Lucie Rie, Hans Coper and their Contemporaries, Dulwich Picture Gallery (London/UK)
 A Duckworth Homage, Organic Abstraction, Garth Clark Gallery (New York/USA)
 One Piece - One Artist, International Ausstellung, Galerie Marianne Heller (Heidelberg/Germany)
- 2004 European Ceramics, Westerwald Museum (Westerwald/Germany)
- 2003 Constructed Clay: Modern British Handbuilding, Galerie Besson (London/UK)
 Selected British Ceramics, James Graham & Sons (New York/USA)
 Ceramic Biennale 2003, Icheon World Ceramic Centre (Icheon/Korea)
 British Ceramics: Five Artists, Frank Lloyd Gallery (Los Angeles/USA)
 British Studio Ceramics, Buckinghamshire County Museum (Buckingham/UK)
 Hove Museum & Art Gallery (Hove/UK)
- 2002 Vasen aus 10 Ländern, Bavarian Craft Council (Munich/Germany)
 Ceramic Modernism: Hans Coper, Lucie Rie and Their Legacy, The Gardiner Museum of Ceramic Art (Toronto/Canada)
- 2001 Poetics of Clay: An International Perspective, Philadelphia Art Alliance (Philadelphia/USA)
 1st World Ceramic Biennale 2001, Icheon World Ceramic Centre (Icheon/Korea)
 Modern Pots, Sainsbury Centre for Visual Arts (Norwich/UK)
 Bengt Julin's Ceramics, Gustavsbergs Porslinsmuseum (Gustavsbergs /Sweden)
- 2000 Britisk Keramik.2000.dk, Keramikmuseet Grimmerhus (Grimmerhus/Denmark)
 Color and Fire, Defining Moments in Studio Ceramics 1950-2000, Los Angeles County Museum of Art (Los Angeles/USA)

[PUBLIC COLLECTIONS]

[UK]

Aberdeen Art Gallery and Museums (Aberdeen)/Buckinghamshire County Museum (Buckingham)/Contemporary Art Society (London)/Crafts Council Collection (London)/Fitzwilliam Museum (Cambridge)/Glasgow Museum and Art Galleries (Glasgow)/Hove Museum and Art Gallery (Hove)/Leeds City Art Gallery (Leeds)/Middlesbrough Institute of Modern Art (Middlesbrough)/Norwich Castle Museum (Norwich)/Peters Foundation (London)/Royal Museum (Edinburgh) Sainsbury Centre for Visual Arts, University of East Anglia (Sainsbury)/Scottish Collection, SDA (Edinburgh)/Thamesdown Collection, Museum and Art Gallery (Swindon)/Trustees Savings Bank Collection (London)/Victoria and Albert Museum (London)

[Germany]

Europäisches Kunst Handwerk Landesgerwerbeamt (Stuttgart)/Kunst Sammlungen der Veste Coburg (Coburg)/Museum für Kunst und Gewerbe (Hamburg)/Peter Siemssen Foundation for Ceramic Art

[Sweden]

CellMark (Göteborg)/National Museum (Stockholm)/Röhsska Museet (Göteborg)

[Switzerland]

Musée Bellerive (Zurich)

[New Zealand]

Hawkes Bay Art Gallery and Museum, Napier (New Zealand)

[USA]

Carnegie Museum of Art (Pittsburgh)/Crocker Museum of Art (Sacramento)/Long Beach Museum of Art (Long Beach)/Long House Reserve Collection (New York)/Los Angeles County Museum of Art (Los Angeles)/Minneapolis Institute of Arts (Minneapolis)/Philadelphia Museum of Art (Philadelphia) Scripps College, Claremont (California)/The Metropolitan Museum of Art (New York)

[Japan]

Tochigi Prefectural Museum of Fine Arts (Tochigi)/Mashiko Museum of Ceramic Art (Tochigi)/The Museum of Contemporary Ceramic Art (Shiga)



企画展

ジェニファー・リー

「信楽・ロンドン：旅の軌跡と蓄積」

会場：現代美術 艸居

会期：2015年10月16日－11月8日

展覧会図録

編集：現代美術 艸居

写真：中川忠明

デザイン：大向デザイン事務所

印刷：桃青アートプリント

発行：現代美術 艸居

初版：2015年10月

Exhibition

JENNIFER LEE

Ceramics made in Shigaraki and London

Place: Sokyo Gallery

Dates: October 16 – November 8, 2015

Catalogue

Edited by Sokyo Gallery

Photo by Tadaaki Nakagawa

Designed by OHMUKAI DESIGN OFFICE

Printed by TOSEI Art Print

Published by Sokyo Gallery

First Published in October 2015



現代美術 艸居